

海外安全対策情報（2025 年 10 月～12 月）

1 社会・治安情勢

(1) 最近のパキスタン情勢

2025 年 4 月、インド北部ジャンムー・カシミール準州で観光客を狙った銃撃テロが発生し、これをインド政府はパキスタンが支援する武装勢力による犯行と非難しました。これを受けて、インド軍は、5 月 7 日にパキスタンのパンジャーブ州及びアーザード・ジャンムー・カシミール地域の複数の場所を空爆し、両国間の軍事衝突に発展したが、5 月 10 日には停戦が実現。

(2) テロ等の傾向

ア 2025 年中、パキスタンでは 699 件（2024 年 521 件）のテロが発生し 5 年連続の増加となった。パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により 2009 年以降減少傾向にあったものの、2021 年以降増加傾向にある。2021 年 8 月のタリバーンによるアフガニスタン・カブールの制圧以降、地域情勢が不安定化し、パキスタンにも大きな影響が及んでいる。2022 年 11 月、パキスタン・タリバーン運動

（TTP）がパキスタン政府との停戦協定の破棄を宣言し、その直後にバロチスタン州やイスラマバードで自爆テロが発生。2025 年 11 月には、イスラマバードの地方裁判所の前で自爆テロが発生し、12 人が死亡、36 人が負傷した。

イ 10 月のテロ発生件数は 41 件であった。テロにより 61 人が死亡し、62 人が負傷した。

11 月のテロ発生件数は 48 件であった。テロにより 57 人が死亡し、93 人が負傷した。

12 月のテロ発生件数は 38 件であった。テロにより 48 人が死亡し、97 人が負傷した。

テロ発生件数（2025 年 9 月～10 月期）から 84 件減少（211 件→127 件）し、死者は 111 人減少（277 人→166 人）、負傷者は 126 人減少（378 人→252 人）した。

ウ 今期においては、即席爆破装置（IED）攻撃や銃撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設を標的と公言している勢力もある。

エ 都市部や地方の別にかかわらず、治安当局によるテロリストの拘束及び武器・弾薬等の押収が多く確認された。治安当局による精力的な取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在しているものの、これらに対応すべくイスラマバード警察は治安維持に取り組んでいる。

(3) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向

にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 銃器使用犯罪

今期においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が頻発している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器のまん延が問題となっている。

(2) その他

今期においても、違法な銃器・爆発物・薬物の押収事案が多数報じられた。

なお、以下についても引き続き注意が必要である。

ア 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、家主の不在の間に家屋に侵入し、金品を窃取する事件が発生しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

イ 名誉殺人

当地では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂名誉殺人が依然として発生している。今なおパキスタン社会では、毎年多くの女性が名誉殺人の犠牲になっている。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させる風習が都市部で残存しており、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのDV被害の発生も問題となっている。

ウ 性犯罪及び虐待

当地では、婦女暴行を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は非常に多い模様だが、同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことが多く、被害実態は正確に把握できていない。被害者の年齢及び性別は多様で、特に子どもをターゲットにした極めて悪質な犯行も発生している。また、最近の報道によれば、イスラマバード市内居住の外国人駐在員女性が自宅の警備に従事している警備員に寝室に押し入られ、性的暴行を受けた事件が発生したとのことであり、当地では、「自分の身は自分で守る」という意識を常に持ち、決し

て油断することなく、細心の注意を払うことが重要である。

エ サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（FIA）サイバー犯罪部門は、SNS を通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。FIA では、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

オ プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、マフィアの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等の行動は、犯罪者に付け入る隙を与えるため、厳に慎む必要がある。

カ 宗教上の禁忌に対する反応

2021年12月3日、パンジャーブ州シアルコートの工場において、スリランカ人マネージャーをパキスタン人従業員が撲殺し、その遺体に放火する事件が発生した。事件の発端は、宗教的禁忌（預言者ムハンマドに対する冒瀆）に起因しており、激高した多くの従業員が暴徒化した。宗教上の禁忌に十分な注意を払い行動する必要がある。

3 誘拐・脅迫事件発生情報

今期、日本人を対象とする誘拐事件は発生していない。

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件がしばしば発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な困難を伴うと共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

また、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

今期においては発生していないものの近年に以下の邦人被害を含む事案が報告されている。

(1) 邦人被害について

2024年4月19日、カラチ市内コーランギー地区において、邦人複数人が乗車する車列が襲撃される事件が発生し、邦人1人が負傷したほか、攻撃に参加したテロリスト2人及び警備員1人が死亡、警備員1人及び通行人1人の計2人が負傷した。

(2) 外国人被害について

ア 2020年12月15日、カラチ市南地区において中国人の車両にリモート

爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した2人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

イ 2021年4月、クエッタにおいて駐パキスタン中国大使が滞在していたホテルに対するテロが発生した。さらに、同年7月14日には、KP州のダス水力発電プロジェクトに従事するスタッフらが乗る中国企業のシャトルバスが建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人及びパキスタン人十数人が死亡し、数人が負傷した。

ウ 2021年8月20日、バロチスタン州グワダル市において CPEC 関連事業に従事する中国人技術者を狙った自爆テロが発生し、中国人及びパキスタン人9人が死亡、複数の負傷者が出た。

エ 2022年4月26日午後、シンド州カラチ市のカラチ大学に隣接する孔子学院前で自爆テロが発生し、中国人教員3人を含む4人が死亡、2人が負傷した。

オ 2022年9月28日午後、カラチ市サダル地区にある歯科医院内で殺害事件が発生し、中国人1人が射殺され、2人が負傷した。

カ 2024年3月26日、KP州においてダス水力発電プロジェクトに従事するスタッフらを乗せた車両が建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人5人とパキスタン人1人が死亡した。

キ 2024年9月22日、KP州スワート郡で、12か国の外交官を含む代表団が、イスラマバードに戻る途中で IED による攻撃を受けた。外交官らは無事イスラマバードに戻ったが、車列を警護していた警察車両に乗車の警察官1人が死亡し、ほか5人が負傷した。

ク 2024年10月6日、カラチ市ジンナー国際空港近傍において、中国人技術者らを狙った自爆テロが発生し、中国人2人及びパキスタン人1人が死亡、複数の負傷者が出た。

(3) 総論

当地においては、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、速やかな退去を命ぜられ、現地治安当局による安全対策がなされないまま放置され、犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続を行うことが必要である。

5 2024年4月から2025年12月までのテロ発生状況

2024年

4月	34件、死者	47人、負傷者	32人
5月	36件、死者	35人、負傷者	57人
6月	27件、死者	32人、負傷者	36人
7月	38件、死者	61人、負傷者	44人
8月	59件、死者	84人、負傷者	166人
9月	45件、死者	54人、負傷者	117人
10月	48件、死者	100人、負傷者	80人
11月	61件、死者	169人、負傷者	225人
12月	44件、死者	63人、負傷者	74人

2025年

1月	56件、死者	70人、負傷者	109人
2月	54件、死者	121人、負傷者	103人
3月	94件、死者	207人、負傷者	229人
4月	40件、死者	47人、負傷者	77人
5月	46件、死者	70人、負傷者	111人
6月	63件、死者	72人、負傷者	95人
7月	58件、死者	68人、負傷者	93人
8月	98件、死者	87人、負傷者	155人
9月	55件、死者	122人、負傷者	130人
10月	41件、死者	61人、負傷者	62人
11月	48件、死者	57人、負傷者	93人
12月	38件、死者	48人、負傷者	97人

(出典：パキスタン平和研究所「PIPS」)

6 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

10月

- 3日、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマールTehsilグルドナ・グンダイ地区で、帰宅中の警察官が武装集団に銃を突きつけられ拉致された。

同日、同郡ワナ・バザール付近アシュラフケル地区で、若い男性が身元不明の者達からの発砲を受け、重傷を負った。

- 5日、ギルギット・バルチスタン（GB）のカリ市立病院付近でGB首席裁判所（Gilgit-Baltistan Chief Court）の判事と警護が身元不明の者達に銃撃されたが、無事であった。

同日、GBの中央警察署（CPO：Central Police Office）付近で活動禁止となっているスンニ派過激派組織（Ahl-e-Sunnat Wal Jamaat (ASWJ)、当館注：以前のシパヘ・サハバ・パキスタン（SSP）が名称を変えもの）のGB及びKP州コヒスタン郡支部長が警護と運転手と共に移動していた際に車列が銃撃

を受け、同支部長、運転手及び警護の警察官 3 人が負傷した。同銃撃事件後、事件に対する抗議活動が発生し、デモ隊によりカラコルム・ハイウェイを含む付近の幹線道路が一時封鎖された。

- 5 日、バロチスタン州カラート郡マンガチャールTehsil郊外コルキ地区で、活動禁止のバローチ分離主義組織と地元部族民との間で銃撃戦が発生し、テロリスト 4 人が死亡、地元民 1 人が死亡、2 人が負傷した。
- 4 日、KP州ペシャワールのマタニ地区マリヤムザイ・ロードで、アフガニスタン出身の礼拝指導者が身元不明の者達に射殺された。
- 6 日、バロチスタン州カラン郡マスカン・カラート地区で、身元不明の武装集団がカジ裁判所を襲撃し、放火した後、判事 1 人を拉致し、車両 2 台も奪って逃走した。裁判所の建物は全焼し、裁判所の記録も破壊された。
- 5 日深夜、KP州コハート郡ダラ・アダムケルTehsilトール・チャップル検問所が身元不明の武装集団からの発砲を受け、警察官 1 人が殉職した。
6 日、同州南ワジリスタン郡南部ビルマールTehsilアザム・ワルサック地区で警察官 1 人がTTPにより拘束された後、地元長老と宗教学者の保証の下で今後地元警察署での職務を行わないことを条件に解放された。
- 7 日、KP州バンヌー郡マングティ・ナイカ・ジャラト地区ムサ・カーンの政府系の高校で教師 2 人が拉致されたほか、同郡ミルヤン警察署管内のベナジール所得支援プログラム（BISP）の給付金支給場所でBISPの職員 2 人がテロリストの集団により拉致された。
- 7 日朝、シンド州シカルプール郡フマユーン・タウン付近の線路で爆発が発生し、特急列車ジャファル・エクスプレスの車両 4 台が脱線し、乗客 7 人が負傷した。今年 7 度目となるジャファル・エクスプレスへの攻撃であり、アバシ鉄道相は、ジャファル・エクスプレスへの度重なる攻撃はインドによるものであると非難した。
- 8 日、バロチスタン州カラン郡マスカン・カラート地区で 6 日に身元不明の武装集団によって拉致されたカジ裁判所の判事 1 人が無事に帰宅した。
- 8 日、バロチスタン州カッチ郡マチにある民間運営の炭鉱で武装集団により労働者 3 人が拉致された。
- 9 日、バロチスタン州ナシラバード郡デラ・ムラド・ジャマリTehsil付近で身元不明のミリタント達がパット・フィーダー運河にかかる鉄道橋付近の線路に仕掛けた即席起爆装置（IED）が爆発し、鉄道職員 1 人が死亡した。
同日、同州デラ・ブグティ郡スイTehsilランジュー・サガリ・チャクラニ地区で地雷が爆発し、2 人が重傷を負った。
- 9 日、KP州オラクザイ郡北部イスマイル・ザイTehsilで連邦警察隊（Federal Constabulary）の検問所が武装攻撃を受け、隊員 1 人が殉職した。
- 8 日、KP州バンヌー郡バカケルTehsilで運転手 4 人が車両と共に身元不明の武装集団に拉致されたが、警察と地元長老の尽力により後に解放された。
9 日、同州北ワジリスタン郡スピンワムTehsilのボブリ・バザール付近で

身元不明の武装集団が民間石油企業の石油タンカーに放火し、運転手と作業員を拉致した。

同日、バンヌー郡ガレラ・シャー・ジェハーンで水道・衛生サービス会社（WSSC）の作業員2人がトラクターと共に拉致された。

同日、同郡ジャニケル地区でトラック運転手3人がトラックと共にテロリスト達により拉致された。

- 9日夜、アフガニスタンのカブール中心部で2回の爆発が発生し、ヌール・ワリ・メスードTTP代表が殺害された旨報じられる中、ムシャーヒド・タリバーン暫定政権報道官は調査中であるが死傷者は報告されていない旨Xに投稿した。同TTP代表が爆発から生き延びたと主張する音声メッセージも存在している。

- 10日、ISPRは、7日のKP州オラクザイ郡における治安部隊への攻撃に関与したテロリストに対する報復としてIBOが実施され、「インドが支援する」テロリスト30人が殺害されたと発表した。

10日、バジョール郡アルマゾ地区及びチナガイ地区に迫撃砲が着弾し、女性2人を含む4人が死亡、3人が負傷した。

10日夜、デラ・イスマイル・カーン郡の警察訓練センターが攻撃を受け、法執行機関が反撃し銃撃戦となり、自爆テロ犯を含む6人のテロリストが殺害され、警察官7人が殉職、13人が負傷した。

- 10日、バロチスタン州ジャファラバード郡のバイパスエリアに仕掛けられた爆弾が爆発し、10歳の少年が死亡し、彼の弟が重傷を負った。

- 10日、治安当局は英国の通信社に対し、アフガニスタンとの国境沿いにおける武装勢力との衝突で少なくとも軍人11人が殉職したと述べた。

- 11日、ペシャワールで武装勢力が警察署を襲撃する事件が発生し、警察との銃撃戦となり、テロリスト2人が殺害された。

- 11日、KP州のコハートトンネル料金所近くで正体不明の人物による発砲事件が発生し、連邦歳入庁（FBR）の職員2人が死亡した。

同日、南ワジリスタン郡北部で、正体不明の人物の発砲による、地元の社会活動家が死亡し、同伴者が負傷した。

- 12日、KP州南ワジリスタン郡で正体不明の武装集団がMehsud Zwanan Ittehad（当館注：南ワジリスタン郡のメスード族による社会・政治団体）の会長を殺害し、部族ジャーナリストに重傷を負わせた。

- 12日、KP州バンヌー郡アザド・マンディ（Azad Mandi）地区でFC边境警備隊（FC）の車列を狙った爆発が起こり、隊員1人が殉職し、1人が負傷した。

12日、KP州モーマンド郡フドリ・モーマンド・ケルのファイズ・ムハンマド・コロナでクアッドコプターから爆発物が投下され、子ども4人が負傷した。

- 14日、KP州スワート郡マッタ（Matta）でポリオ予防接種チームの護衛に行っていた憲兵隊（Levies）1人が何者かに銃撃され殉職した。

- 15日、KP州ノーシェラ郡にザムプール地区で身元不明の者達からの発砲を受け、ポリオ・ワクチン接種チームの護衛を行っていた警察官1人が殉職した。
- 16日早朝、バロチスタン州のチャマン国境近郊の主要国境検問所バベ・ドーストで、アフガニスタンを拠点とするミリタントがIEDによる攻撃を行った。これを受け、パキスタンは大規模な軍事対応を開始し、国境沿いのミリタント達が占領していた主要検問所9か所を破壊したほか、アフガニスタンのカンダハール県にある武装勢力の旅団司令部を標的とし、国防関係筋によれば、ミリタント180人以上を殺害、約500人を負傷させた。その後、カブールにあるテロリストの隠れ家に対する作戦が実施され、ミリタント100人以上が死傷者したとされる。また、パキスタン軍はアフガニスタン国内の他の2～4か所（詳細は非公開）で空爆を成功させた。
- KP州ラッキー・マルワット郡ケロケル・パッカ地区で夜間パトロールをしていた地元平和委員会のメンバーが身元不明の者達からの発砲を受け、3人が負傷した。
- 16日、バロチスタン州スラブ郡で、ポリオ予防接種チームの護衛のために派遣されていた警察官1人が、任務を終えクズダール郡に移動していた際に身元不明の者達により射殺された。
- 17日、バロチスタン州との境界付近のテシュ山脈近郊でTTPの司令官が身元不明の者達に殺害された。
- 約2か月前にバロチスタン州ジアーラト郡でTehsil長（AC）を務める父親と共に誘拐された息子が無事に救出された。父親は依然として行方不明である。
- 17日夜、バロチスタン州カラーン郡バシマ・チョークで警察署長（SHO）が検問を行っていたところ、武装集団からの発砲を受け殉職した。
- 19日、アフガニスタンとの国境付近のバロチスタン州キラ・アブドゥッラー郡ハビーブザイ地区で身元不明の武装集団が住宅に手榴弾を投げつけ、子ども2人を含む3人が負傷した。
- 19日、バロチスタン州パンジュゲール郡チトカン地区でラフマット・サレ・バローチ同州議会議員（国民党（NP）所属）の弟が帰宅中にオートバイに乗った武装集団に銃殺され、同行していた同郡の郡長（DC）も死亡した。
- 22日、バロチスタン州ノシュキ郡ガリババード・ウエスタン・バイパス付近で警察官2人がオートバイに乗った身元不明の者達により射殺された。また、同州カッチ郡サンニ・ショラン地区でパトカーが通過した際に道路脇に設置された地雷が爆発し、治安要員1人が死亡した。

同日、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilエピ村付近で身元不明の武装集団からの待ち伏せ攻撃を受け、地元平和委員会のメンバーとされる6人が死亡した。犯人達は車両に無差別に発砲して6人を殺害した後、車両にガソリンをまいて放火し、遺体は焼け焦げた。
- KP州ハイバル郡ティラー溪谷でテロリストからの攻撃を受け、連邦警察隊

(Federal Constabulary) 隊員 1 人が殉職した。

- KP州バジョール郡カルTehsilのバジョールーペシャワール高速道路ラシュカイ・ストップ付近で警察官 1 人がTTPのテロリスト達に拉致された。
- 23日、バロチスタン州マストゥング郡ダシュトTehsilのスプリンジ・ロードで帰宅中の労働者 9 人（うち 4 人は地元民、5 人はシンド州出身者）が身元不明の武装集団により拉致された。
- 23日、バロチスタン州マストゥング郡キルドガブTehsilで、18～19日夜にノシュキ郡からクエッタで向かう途中で身元不明の武装集団に拉致されたノシュキ郡警察官の遺体が発見された。
- 23日夕方、KP州バジョール郡ワル・マムンドTehsilダマドラ地区で民家に迫撃砲弾が着弾し、子ども 3 人を含む 4 人が負傷した。
- 23日、KP州ラッキー・マルワット郡ナセルケルで、身元不明の武装集団がオートリキシャに発砲し、乗車していた同郡教育部職員の男性 1 人が死亡、少年 1 人が負傷した。
- 24日、KP州ハンゲー郡のビリャミナ警察署管内にある検問所でTTPが仕掛けたIEDが爆発し、警察官一行が現場に向かっていたところ、道路脇で再びIEDの爆発が発生し、警視（SP）と警察官 2 人が殉職した。
- KP州ラッキー・マルワット郡サライ・ノーラングTehsilナサルケル・ナリ・チャクで、身元不明の武装集団により自宅を襲撃され、連邦警察隊（Federal Constabulary）隊員 1 人が殉職した。
- 23日夜、バロチスタン州クズダール郡ナールTehsilの建設会社のキャンプと破碎工場で身元不明の武装集団により労働者18人が拉致され、多数の車両が放火された。
- 24日、KP州南ワジリスタン郡ビルマールTehsilのアザム・ワルサック・バザールのモスクで、同モスクを管理するJUI-Fの地元指導者がモスク内の自室に戻った際に身元不明の者達が仕掛けたIEDが爆発したが、間一髪で逃れた。
- 25日、バロチスタン州デラ・ブグティ郡スイTehsilランジューサガリ地区で道路沿いに地雷を埋設していた際に地雷が誤爆し、ミリタント 2 人が死亡、1 人が負傷した。
- 26日夜、KP州ハンゲー郡ブグト・チョークの検問所が身元不明のテロリスト達による発砲を受け、現場にいた警察は迅速に応酬し犯人達の侵入を阻止したが、銃撃戦で警察官 1 人が負傷した。
- 25日、ギルギット・バルチスタン（GB）ディアメルのチラースのトーレ地区にあるディアメルバーシャ・ダム建設現場付近で、同ダム建設プロジェクトに従事するパキスタン水利電力開発公社（WAPDA）の職員 2 人がミリタントにより拉致された。
- CTDの報告によると、今年KP州各地で発生した様々場テロ攻撃により、298 人（警察官117人及び民間人181人）が死亡し、486人が負傷したほか、2366 件のIBOが実施され、ミリタント1124人が逮捕、テロリスト368人が殺害され

た。

- 27日、バロチスタン州ケチ郡トゥルバットTehsilで、同郡長（DC）の車列がタナ・ロードに到着した際にオートバイに仕掛けられたIEDが警備車両付近で爆発し、憲兵隊隊員9人と通行人1人が負傷した。DCは被害を逃れた。

同州カッチ郡バークで、ミリタント約50人が警察署、憲兵隊事務所、Tehsil事務所やピックアップトラック等を襲撃し、憲兵隊隊員を人質に取り、警察署に向けて発砲を開始した。警察官達は応戦し、犯人2人を殺害したが、銃撃戦でバーク警察署長（SHO）が死亡、警察官1人が負傷した。警察によれば、武装集団は拘置所に押し入り、未決囚6人を連れ去った。

- 27日、KP州バジョール郡イナヤット・カレイ・バザールで、同郡ダバル平和委員会元委員長を務めた著名な長老が身元不明の武装集団により殺害された。

- 28日、バロチスタン州ケチ郡ブレダTehsilレコ地区の検問所がオートバイに乗った身元不明の武装集団からの発砲を受け、FC隊員1人が死亡、3人が負傷した。

- 28日、KP州バンヌー郡カッキ・タウンのドサラク地区付近で警察官1人がオートバイに乗ったテロリスト達からの銃撃を受け殉職した。

- 31日、KP州バンヌー郡ハベイド・アダ地区で警察官1人がテロリストにより拉致された。これを受け、サルディケルの住民は地元警察と共に捜索を開始し、2日、テロリストの司令官とみられる人物の父親と兄弟を自宅で拘束し、誘拐された警察官が無事に救出されるまで、釈放しないと表明した。3日、警察官は解放された。

同日、バンヌー郡警察は、3日前に北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilで警察官であった兄の葬儀（28日にバンヌー郡でテロリストからの襲撃を受け殉職）に向かう途中でテロリスト達により拉致された警察官を無事救出した旨発表した。

- 31日、KP州北ワジリスタン郡ダッタケル地区で身元不明のオートバイ乗り達により部族長老と彼の息子2人が殺害された。

- 31日、KP州ハイバル郡ジャムルードTehsilワルマンド・メラ地区で少年が自宅に隣接する空き家に侵入した際、手榴弾が偶発的に爆発し、死亡した。

- パキスタン紛争安全保障研究所（PICSS）の月次報告によれば、10月の死亡者は458人（ミリタント355人、治安要員72人、民間人30人及び親政府和平委員会メンバー1人）、負傷者は162人（治安要員92人、民間人48人及びミリタント22人）であり、ミリタントは過去10年間で最大の損害を被った。

治安部隊はミリタント容疑者22人を逮捕した一方、ミリタントは55人を誘拐しており、これは過去10年間で月間誘拐件数としては最多となった。また、ミリタントによる攻撃は9月の69件から10月には89件へと29%増加したが、これらの攻撃による人的損失は全体で19%減少した。

ミリタントによる攻撃では109人（治安要員55人、民間人29人、ミリタント24人及び平和委員会メンバー1人）が死亡し、134人（治安要員88人、民

間人45人及びミリタント1人)が負傷した。

11月

- 1日、バロチスタン州ナシラバード郡デラ・ムラド・ジャマリTehsilのメイン・バザールで国道警察(NHP: National Highway Police)事務所が身元不明のオートバイ乗りからの手榴弾攻撃を受け、近くのガソリンスタンドで勤務していた男性1人が負傷した。
- 1日、KP州ローワー・ディール郡ガンバト・バンダ地区Gで、村の防衛委員会(VDC: village defence committee)元メンバーの男性1人が身元不明の者達により射殺された。
- 2日、KP州ハンゲー郡カルボガ地区付近のパラチャ墓地で警察チームが搜索活動をしていた際にIEDが爆発し、警察署長(SHO)含む警察官3人が負傷した。
同州タンク郡ラリケル地区でのIBOで、治安部隊はアフガニスタン人の爆弾製造専門家を殺害した。ミリタント2〜3人は負傷したが、逃走した。
- 1日夜、KP州ラッキー・マルワット郡ケルケル・パッカ地区で平和委員会のボランティアがパトロールしていた際にテロリスト約50人と遭遇し、銃撃戦でボランティア2人が負傷した。
- 1日、KP州ハイバル郡ティラー渓谷カンバルケル地区の長老達はTTP 地元司令官達と会談し、8月5日の「和平合意」(地元住民を治安部隊に対する人間の盾として利用しないというTTPの約束)にもかかわらず、テロリストと治安部隊との銃撃戦で多数の死傷者が発生し、民家等も損壊していることに抗議した。2日、TTPの司令官達は同地区の民家に設けていた全ての隠れ家から撤退することに原則的に同意した。
2日、カンバルケル地区及びマラクディンケル地区で少なくとも3回のクワッドコプターによる攻撃があり、女性1人が死亡、3人が負傷した。
- 3日、KP州バンヌー郡ミランシャー・ロードで、バンヌー地域警察署での公式会議に向かっていた北ワジリスタン郡警察長の車両がテロリスト達からの待ち伏せ攻撃を受け、警察官5人が負傷した。銃撃戦で警察側はテロリスト複数人を殺害した。
- 4日、KP州チャルサダ郡タンギTehsilのマンダニータクト・バイ・ロードで、モスクから帰宅途中のJUI-F指導者が身元不明の2人のオートバイ乗り達により射殺された。
- 6日午後、バロチスタン州チャマンー(アフガニスタン・カンダハール県)スピン・ボルダックの国境検問所で銃撃戦が発生し、女性を含む2人が死亡した(死傷者無しとの情報もあり)。スピン・ボルダックのアフガニスタン当局者は本件、結婚式での祝砲による誤解が原因だと述べたが、ムジャーヒド・タリバーン暫定政権報道官はパキスタン軍がスピン・ボルダックに発砲し、地元住民に不安を与えたがアフガニスタン軍はイスタンブール協議に参加している交渉チームへの敬意と民間人の被害を防ぐため反撃を行って

いない旨述べた。しかし、当地情報・放送省はアフガニスタン側の主張を否定し、発砲はアフガニスタン側から開始され、治安部隊が即座に慎重かつ責任ある対応で応じたと述べるとともに、状況は収束し、停戦は維持されていると述べた。

- 6日、KP州バンヌー郡ママンドケル地区マスーマバード付近で警察とテロリストとの銃撃戦が発生し、警察官1人が殉職、警察官10人を含む14人が負傷した。情報筋によれば、テロリスト複数人も死傷した。
- 6日、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilで、9月12日に同州バンヌー郡ピール・ディルケル地区で武装集団により拉致されたペシャワール電力供給会社（PESCO）の従業員5人が解放された。
- 6日、KP州ラッキー・マルワット郡ママンドケルで村人1人がスパイ容疑によりテロリス達により拉致され、殺害された。翌7日、同州バンヌー郡ママンドケル・アーザード・マンディ地区の道路に同人の死体が遺棄された。
- 8日、バロチスタン州カラート郡ハリカバードのサルバンドで、部族指導者とその兄弟を含む4人が身元不明の者達により射殺された。
同日、同州パンジュゲール郡シュピスタン地区で男性2人が身元不明のオートバイに乗った武装集団により射殺された。
同日、同州ナシラバード郡デラ・ムラド・ジャマリTehsilのノタル警察署付近で、建設会社に勤務する掘削機運転手2人が身元不明の武装集団に銃を突きつけられ拉致された。
同日、同州カッチ郡ゴート・ミスリ・カーンで男性1人が武装集団により射殺されたほか、同州チャガイ郡ダルバンディンで著名な部族指導者が身元不明の武装集団に射殺された。
- 8日、KP州ハイバル郡バラTehsilマラクディンケルの住宅内で手榴弾が偶発的に爆発し、3人が死亡、1人が負傷した。
- 9日、KP州タンク郡ムハンマド・アクバル村で、警察官が自宅で身元不明の者達からの発砲を受け、殉職した。
- 8日、KP州バンヌー郡ピーパル・バザールで、7日前に汚職容疑が立証されたため解雇された前ワジールTeshil警察署長（SHO）がミリタント達により車両と共に拉致された。

7日にも同地域で警察官2人が拉致されたが、地元長老達の介入により後に解放された。

- 10日、KP州南ワジリスタン郡でテロリスト達がワナ士官学校を襲撃し、周囲の警備網を突破しようとするも治安部隊に阻止された後、爆発物を積んだ車両を正門に突入させ、正門が崩壊し、隣接施設が損傷したほか、民間人9人が負傷した。治安部隊は銃撃戦でテロリスト2人を殺害し、3人は学校の管理棟で包囲された。

11日、治安部隊は学校にいた学生、教員及び民間職員を含む650人全員を避難させることに成功した。また、治安部隊は報復作戦で管理棟に包囲されたテロリスト3人を殺害した（これによりテロリスト5人全員が死亡）。軍

統合広報局（ISPR）は、今般攻撃はアフガニスタンで計画され、TTPによる犯行であった旨述べるとともに、テロリスト達は2014年のペシャワール陸軍公営校（APS）襲撃事件を再現しようとしたと述べた。

- 10日、KP州南ワジリスタン郡北部カニガラムTehsilモミ・カラム・クチュ地区で男性が地雷を踏み、重傷を負った。
- 11日、イスラマバードのG-11地区の地方裁判所前で自爆攻撃が発生し、12人が死亡、警察官4人を含む36人が負傷した。警察当局者によれば、予備調査の結果、自爆犯はイスラマバード外部から侵入した可能性が高い。当局によると、TTPが犯行声明を发出した。
- 11日、KP州バンヌー郡サルディケル地区及びジャニケル地区付近でクワッドコプターによる攻撃があり、未成年者を含む3人が死亡、4人が負傷した。同郡では最近、テロリストが警察施設や民間人を対象に同様のクワッドコプターによる攻撃を行っている。

同日、同郡ワルキ・ママケル地区でテロリスト達からの襲撃を受け、警察官1人が殉職した。

- 11日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡クラチTehsilで治安部隊の車列を標的にしたIEDが爆発し、治安要員19人が負傷した。
- イスラマバード自爆攻撃事案

14日、パキスタン政府は、11日にイスラマバードで発生した自爆攻撃事件に関与したとされるTTPと関係のある4人を逮捕した旨発表した。

16日、今般事案の捜査で、テロリストは以前にもイスラマバードの治安要員を標的にしようとしたが、失敗したことが明らかになった。

- 12日、KP州ハイバル郡ティラー溪谷バル・カンバルケルで迫撃砲弾が住宅に着弾し、少女1人が死亡した。

13日、同溪谷シャロバル地区で行われていた結婚式にクワッドコプターから投下された爆発物が直撃し、8人が負傷した。

同日夜、同州ハイバル郡バラTehsilのママンリー・ダム周辺で技術者1人とダム作業員2人が身元不明の武装集団により拉致された。

同日深夜、同州コハート郡ダラ・アダムケルTehsilバジドケル村で実施した作戦で、CTDはテロリスト3人を殺害した。3人は警察への複数の攻撃に関与していた。

- 15日夕方、KP州ラッキー・マルワット郡シェリケル地区のクリケット競技場に、クワッドコプターから爆発物が投下され、4人が負傷した。
- 15日、バロチスタン州カッチ郡マチで高圧ガスパイプラインが爆発し、主要地域へのガス供給が途絶えたため、同州全土の多数の住民が異例の寒波の中で厳しい苦難に直面した。ガス会社（SSGC : Sui Southern Gas Company）によれば、身元不明の者達が早朝に主要パイプラインを爆破し、クエッタ郡、ピシン郡、クチュラク、ジアーラト郡、マストウング郡及びカラート郡へのガス供給を停止させた。クエッタのいくつかの人口密集地域（サリアブ、イースタン・バイパス、ナワン・キリ及びパシュトゥーナバード）のガ

ス供給も完全に停止した。

- 14日、KP州バンヌー郡でFC隊員 1 人が身元不明の武装集団により拉致されたが、後に無事に解放された。
- 16日、KP州ハイバル郡シンゲルでテロリスト達が検問所を攻撃した後、同郡アカケル地区から迫撃砲弾が放たれ、オラクザイ郡北部の地元民の住宅内に着弾し、2 人が死亡した。
- 16日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡クラチTehsilで身元不明の武装集団からの発砲を受け、男性 1 人が死亡した。
- 16日、バロチスタン州ジャファラバード郡の国境沿いの検問所が身元不明の者達からの手榴弾攻撃を受け、警察官 1 人が重傷を負った。
- 17日夕方、KP州ラッキー・マルワット郡シェリケル近郊で身元不明の者達が主要ガス・パイプラインを爆破し、パンジャブ州へガスを供給する主要輸送ラインが損傷し、大規模なガス漏れが発生した。
- 18日、KP州南ワジリスタン郡北部ティアルザTehsilのマーケットで武装集団からの標的攻撃により民間人 2 人が死亡した。犯人のうち 1 人も射殺された。

同日、同州ラッキー・マルワット郡セライ・ノーラングTehsilでテロリスト達からの銃撃を受け警察官 1 人が殉職した。

- 19日、KP州南ワジリスタン郡南部トイ・クラTehsilシャルカナイ地区の仮設検問所付近で警察とテロリスト達による銃撃戦が発生し、9 歳の少年が死亡した。
- 20日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡クラチTehsilハタラ地区で警察の装甲兵員輸送車（APC）を標的にしたIEDが爆発し、警察官 1 人と運転手が殉職、FC隊員 1 人を含む 4 人が負傷した。
- 19日、KP州南ワジリスタン郡北部の丘陵地帯マキンTehsilで非地元民の労働者 9 人が作業をしていたところ、うち 2 人が身元不明の武装集団に拉致された。
- 20日夜、KP州バンヌー郡カシミール・ドレイ・ダリーズ地区で武装集団が地元平和委員会のメンバーに発砲し、7 人が死亡、2 人が負傷した。
- 22日夕方、KP州南ワジリスタン郡南部ワナTehsilゴルゴラ地区で、元警察官が身元不明の者達に射殺された。

同日、同郡南部ビルマールTehsilカザ・パンガ地区の住宅付近に迫撃砲弾が着弾し、13歳の少女が死亡した。

- 23日、バロチスタン州ナシラバード郡デラ・ムラド・ジャマリTehsil近郊にある建設中の医科大学のキャンパスが武装集団により襲撃され、警察と治安部隊は報復攻撃でミリタント 3 人を負傷させた（銃撃戦の後、犯人達は負傷した 3 人を連れて逃走した）。
- 24日朝、KP州ペシャワール市の連邦警察隊（Federal Constabulary (FC)）本部入口付近で自爆犯が自爆した。FC隊員達は即座に対応し、共犯者 2 人が施設内に侵入する前に射殺した。犯人 3 人は、正門付近で開催され

ていたFCの週例集会を標的にしようと計画していたとみられ、集会にはFC隊員約400人が集まっていた。初期捜査によれば、テロリスト3人全員がアフガン国籍であることが判明した。この襲撃事案により、FC隊員3人が殉職、12人が負傷した。

- 24日、KP州南ワジリスタン郡北部ティアルザTehsilマントイ地区の丘陵地帯で地雷が爆発し、18歳の羊飼いが死亡した。
- 24日、KP州バンヌー郡ドメルTehsilの連絡道路で、治安部隊の車両がテロリスト達による待ち伏せ攻撃を受け、兵士1人が負傷した。
- 24日、シンド州カシュモール郡カンドコートTehsilの村外れのジャングルで、少年達が不発の迫撃砲弾を玩具と間違えて遊んでいたところ、爆発が発生し、4人が死亡、2人が重傷を負った。
- KP州南ワジリスタン郡南部ワナTehsilで運転手1人が身元不明の武装集団により拉致された。
- 25日にタリバーン暫定政権がパキスタンがホースト県、クナール県及びパクティカ県を空爆したと非難し、アフガニスタン国内及び海外メディアもパキスタンによるアフガニスタン東部への空爆で女性1人と子どもを含む少なくとも9人が死亡した旨報じていることにつき、アフメド・シャリフ・チョードリーISPR長官は、パキスタン軍がアフガニスタン国内の民間人を攻撃したことはないと断言し、パキスタンが攻撃を行う際にはそれを発表していると述べた。また、ハワージャ国防相もジオ・ニュースに対し、パキスタンは反撃し報復するが、民間人を標的にすることは決してない旨述べたほか、タリバーン暫定政権はアフガニスタン人の敵でありパキスタンの明確な敵となった旨述べた。
- 25日、ターラル情報相は記者会見で、ヌール・ワリ・マスードTTP代表が11日にイスラマバードで発生した自爆攻撃を計画したと述べ、実行犯4人とTTP司令官達のやり取りを詳細に説明し、全てがアフガニスタンから指揮された事実は疑いようがなく、アフガニスタン・タリバーンとTTPが共同で犯行に及んだ旨述べた。
- 25日夜、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマールTehsilゴウルラマで複数の迫撃砲弾が住宅付近に着弾し、2人が負傷した。
- 26日、バロチスタン州カッチ郡サンニ・ショラン地区で地元住民の自宅に埋設されていた地雷が爆発し、子ども3人が死亡、3人が負傷した。
- 26日、KP州ハンゲー郡のカージ・トラブ検問所がテロリスト達からの攻撃を受け、警察官3人が殉職した。
- 26日、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマールTehsilアザム・ワルサック地区で、銃弾で撃たれた2人の遺体が発見された。
- 26日、KP州バジョール郡カルTehsilジャンナト・シャー地区で放置されていた爆発物が爆発し、2人が死亡、1人が重傷を負った。
- KP州タンク郡で若者1人がスパイ活動に従事したとして身元不明の武装集団に拉致された。

- 26日夜、KP州ペシャワール市郊外のハミード・カーン・マチン地区で身元不明の者達によりガス・パイプラインが爆破された。地元住民によれば、爆発によりパイプラインから火災が発生した。
- 27日、KP州ラッキー・マルワット郡シェイク・ランダク地区で検問所がクワッドコプターによる攻撃を受け、警察官2人が負傷した。
- 27日、KP州バジョール郡カル・バザールのクーズ・サルで男性1人が身元不明の武装集団に射殺されたほか、同郡マリカナのジャル・バンダでも男性1人が身元不明の者達により射殺された。
- 28日、バロチスタン州カッチ郡マチTehsilアダ・マチ・バザールで身元不明の者達が仕掛けた爆発装置が爆発し、1人が負傷した。
- 27日夜、KP州バンヌー郡のアフマドザイ検問所がテロリスト達による攻撃を受けた。
同日夜、同州ローワー・ディール郡のコライ基地が、TTPのテロリスト達からの攻撃を受け、女性1人が死亡した。
- 28日、KP州ペシャワール市のボード・バザール付近で、アフガニスタン人の聖職者とその息子が身元不明の者達からの銃撃を受け死亡した。同聖職者は脅迫を受けており、情報機関から複数の勧告を受けていた。
- 27日夜、KP州バジョール郡カルTehsilラガガン地区で、アンワル・ゼーブ・カーン同州議会議員（PTI所属）の自宅が身元不明の者達によるクワッドコプターによる攻撃を受け、警備員1人が負傷した。
- 29日、バロチスタン州クエッタ市郊外で鉄道線路の一部がIEDで爆破され、他地域への列車運行が停止した。
同日深夜、同州クエッタ市サリアブ地区で道路の建設工事をしていた建設会社の野営地が身元不明の武装集団による手榴弾攻撃を受け、機械が損傷したほか、警備員1人が負傷した。
- 29日、KP州ラッキー・マルワット郡で身元不明の武装集団からの銃撃を受け、FC隊員1人が負傷した。
- 30日深夜、バロチスタン州チャガイ郡ノクンディTehsilにあるFC本部で、自爆犯（翌日の報道によれば、女性自爆犯であった）が自爆した後、少なくとも6人のテロリストがキャンプへの侵入を試みたが、FC隊員達は直ちに報復し、テロリスト3人を殺害した。バローチ解放軍（BLA）が犯行声明を出した。
同日夜、同州パンジュゲール郡グルマカン地区でFC検問所がテロリスト達からの襲撃を受け、治安部隊は銃撃戦でテロリスト複数人を殺害した。BLAが犯行声明を出した。
- 29日、バロチスタン州ケチ郡ホシャーブTehsilで住宅街に迫撃砲弾が落下し、少女5人が負傷した。翌30日に、うち1人が死亡したことを受け、遺族と地元住民は抗議のためM-8 CPEC高速道路を封鎖した。
- 30日、KP州クーラム郡中央部のチナラク警察検問所がミリタント達からの攻撃を受けた。

12月

- 1日、KP州ラッキー・マルワット郡バクマル・アフマドザイ地区のカトゥ・アダ付近でタジョリ警察署の車両が自爆テロの標的となり、警察官1人が殉職、5人が負傷した。
同日、同州バンヌー郡スランギ・アダ付近で警察官1人がテロリスト達により射殺された。
- PICSSの月次報告によれば、11月のミリタントによる攻撃は10月の89件から97件と僅かに増加し、民間人の死者は30人から54人と80%も急増した一方で、治安部隊の死傷者は72人から25人となり65%減少した。
- ジェンダーに基づく暴力を監視する団体「サヒル」(Sahil)の年次報告書によれば、2025年の1月～11月にパキスタン全土で女性に対する犯罪は6,543件(殺人1,414件、拉致1,144件、暴行1,060件、自殺649件及び強姦585件を含む)報告され、前年の5,253件から約25%増加した。地域別では、パンジャーブ州が全事件の78%、シンド州が14%、KP州が6%、バロチスタン州、イスラマバード、アーザード・カシミール、ギルギット・バルチスタンが合計で2%を占めていた。
- 2日、KP州バンヌー郡ママンドケル地区で、北ワジリスタン郡ミランシャーTehsil長(AC)が乗車していた車両がテロリスト達からの発砲を受け、同AC、警察官2人及び民間人1人が死亡したほか、警察官2人及び運転手が負傷した。犯人達は逃走前に車両に放火した。
- 3日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡パニアラTehsilのボーイズ・ディグリー・カレッジ付近で、身元不明のミリタント達がパトロール中の警察車両に対し発砲するとともにIEDを爆発させ、副警部補(Assistant Sub-Inspector)1人及び警察官2人が殉職、警察官1人が負傷した。
- 3日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡ダラバン・カランで、PPP指導者(ダラバンTehsil元議員)の自宅の客間が身元不明の者達からの発砲を受け、同PPP指導者が負傷、運転手が死亡した。
同日、同州南ワジリスタン郡北部ティアラザTehsilで警察パトロール隊が身元不明の者達からの待ち伏せ攻撃を受け、銃撃戦で特別捜査官(Special Branch official)1人が負傷した。
同日、同州バンヌー郡マヌマバード地区ミランシャー・ロードでトラック運転手が身元不明の武装集団からの銃撃を受け負傷し、車両を奪われた。
- 安全保障研究センター(CRSS)によれば、2025年1月～11月に暴力事件は25%以上増加し、暴力行為に関連した死者は少なくとも3,187人(2024年は2,546人)に上り、負傷者は1,981人に上った。これらの死傷者はテロ攻撃や対テロ作戦を含む1,188件もの暴力行為によって発生し、暴力事件はKP州とバロチスタン州に圧倒的に集中しており、両州を合わせると全死者数の96%以上、全暴力事件数の92%以上を占めた。
- 5日深夜、バロチスタン州のチャマン国境でパキスタン軍とアフガン軍の間で激しい銃撃戦が発生した。パキスタン当局はアフガン軍がバダニ地区に

迫撃砲弾を発射したため反撃した旨主張した一方、ムジャーヒド・タリバーン暫定政権報道官はパキスタン軍がカンダハール県スピンボルダクに攻撃を開始したためアフガン軍が反撃した旨主張した。パキスタン側は女性1人を含む3人が負傷したとされる。フェトラット・タリバーン暫定政権副報道官によれば、アフガニスタン側では5人が負傷した（情報筋によれば、パキスタンは反撃でアフガニスタン軍の拠点3か所を完全に破壊し、アフガニスタン兵士23人が死亡、複数人が負傷した。）。6日、チャマンでの戦闘は停止した。

- 5日、バロチスタン州ジャル・マグシ郡の山岳地帯カルサジ地区で7人が身元不明の武装集団に銃を突きつけられ拉致された。

同日、同州ナシラバード郡デラ・ムラド・ジャマリTehsilで男性とその息子が武装集団に殺害された。

同日、同州デラ・ブグティ郡スイTehsilでの式典で、ワデラ・ヌール・アリ・チャカラニ・バローチ共和軍（BRA）上級司令官率いる100人以上のミリタント達が当局に投降した。

- 7日夜、KP州バンヌー郡のアフマドザイ警察署がテロリスト達からの攻撃を受けた。

- 9日、KP州クーラム郡で検問所がTTPのテロリスト達により襲撃され、兵士6名が殉職、4名が負傷したほか、交戦でテロリスト2名が死亡した。

- 10日、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilエスリ地区の神学校で、生徒数名が玩具と間違えて持ち込んだ迫撃砲弾が爆発し、子ども2名が死亡、16名が負傷した。

同日朝、同州バジョール郡サラルザイTehsilマラ・サイド地区の山で、前9日に身元不明の者達に拉致された若者2人の銃弾で撃ち抜かれた遺体が発見された。

- 10日朝、KP州バタグラム郡本部病院で勤務中の警察官が身元不明の者達により銃殺された。

- 10日夜、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilクシャリ地区で、600名以上が在籍する政府系の小学校が身元不明の者達により爆破され、校舎の大部分が破壊された。

- 11日、KP州タンク郡ジャンドラTehsilカイスラニ地区で強力な爆発が発生し、主要司令官を含む活動禁止組織のテロリスト3名が死亡した。

- 11日、KP州南ワジリスタン郡南部ワナTehsilショラム地区で部族の長老が身元不明の武装集団により拉致された。

- 11日、KP州バンヌー郡シェイク・ランダク地区で、サッカーの試合が運動場で行われていた際にテロリスト達によるクワッドコプター攻撃が発生し、未成年を含む7名が負傷した。

12日、KP州ラッキー・マルワット郡サイドケル地区で、警察官1名がモスクから出る際にTTPのテロリスト2名からの発砲を受けた。また、礼拝者2名が負傷した。

同日、同郡アバサ・カタック地区で、警察チームが指名手配中の者達を取り囲んだ際に銃撃戦が発生し、警察官1名が負傷した。指名手配者1名も逮捕前に負傷した。

- 13日、KP州バンヌー郡パトナ・ママンドケル地区の住宅街で、クワッドコプターが墜落し少年3名が死亡、1名が負傷した。これを受け、14日、治安部隊と警察は共同で作戦を実施し、司令官を含むTTPのミリタント3名を殺害、1名を負傷させた。

13日、同州南ワジリスタン郡南部のワナーカリコート・ロードの橋の付近でIEDが爆発し、アフガニスタン人の少女1名が死亡した。

- 14日、バロチスタン州パンジュゲール郡タスプ地区の廃墟で、拉致されていたCTD職員の遺体が発見された。また、同州ケチ郡トゥルバットTehsilのカヒラバード及びアブサールの各地区で銃撃事件が発生し、男性2名が武装集団により射殺された。

- 14日夜、バロチスタン州クズダール郡ワドTehsilで、シンド州出身者2家族が住む住宅の中庭に身元不明の者達が手榴弾を投げ込み、子ども1名が死亡、女性2名と子ども3名が負傷した。

- 14日、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマールTehsilアザム・ワルサック地区で、スレマンケル部族の長老が身元不明の者達により射殺された。

- 15日、バロチスタン州パンジュゲール郡チトカン・バザールで、活動禁止団体に所属する重武装した集団50名以上が民間銀行3行に押し入り数百万ルピー（約1億9000万ルピーとの報道もあり）を略奪した後、パキスタン国立銀行（NBP）ともう一つの銀行への侵入を試みたが、警察とCTD職員が現場に駆けつけ、銃撃戦で犯人達を撃退した。銃撃戦でCTD職員1名と民間人1名が死亡、警察官3名が負傷した。

- 15日、KP州バンヌー郡ノーランゲケル地区及びジャニケル地区付近でクワッドコプターによる攻撃が発生し、子ども2名を含む4名が負傷した。

- 15日夜、シンド州ゴトキ郡ウバウロTehsil付近で約15名の武装強盗団（ダコイト）がサディカバードからクエッタに向かうバスを襲撃し、運転手を負傷させた後、乗客約20名を拉致した。

16日、同州警察は同Tehsilのスーミアニ地区で大規模作戦を実施し、人質20名全員を救出した旨発表した。作戦でダコイト2名が負傷、警察官1名が負傷した。また、警察によれば、人質2名も負傷し、1名は心臓発作で死亡した。

- 16日、KP州バジョール郡サラルザイTehsilタンギ地区でポリオ・ワクチン接種チームが身元不明の者達から襲撃され、護衛の警察官1名と通行人1名が死亡した。

- 16日、警察は、KP州クーラム郡北部カラケラ砂漠で、数日前にブシェラ地区で拉致された男性の遺体が発見された旨発表した。

- 17日朝、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilで治安部隊とテロリスト達の間で衝突が起こった際に、ハソケル村及びモスキ村の住宅に迫撃砲弾

が着弾し、民間人1名が死亡、4名が負傷した。

- 国連安保理に提出された分析支援・制裁監視チームの第16次報告書によれば、今年5月にパキスタン当局はスルタン・アジズ・アザムIS-K報道官を逮捕し、地域でのプロパガンダ活動を妨げた。2025年のアフガニスタン国内でのIS-Kの攻撃件数は減少したものの、主要司令官の一部が殺害されたにもかかわらず、同組織は依然として強靱な勢力を維持しているほか、北アフガニスタンとパキスタン国境付近の地域で同組織はマドラサで子ども達を洗脳し、14歳前後の未成年者向けの自爆訓練コースを設立している。
- 18日、KP州タンク郡のSMA警察署がクワッドコプターによる攻撃を受け、少なくとも警察官2名が負傷した。
- 19日、KP州北ワジリスターン郡ボヤ地区で、治安部隊の基地がTTPのテロリスト達からの銃撃を受けた。テロリスト達は境界警備を突破しようと試みるも阻止されたため、爆発物を積んだ車両を外周壁に衝突させ、壁を崩壊し、モスクを含む隣接する民間インフラに甚大な被害をもたらし、地元住民15名が負傷した。治安要員4名が殉職した。
- 19日、KP州クーラム郡中央部の村に埋められた地雷が爆発し、子ども2名が重傷を負った。
- 20日、KP州ハイバル郡バラTehsilバル・カンバルのカラパ地区で、治安部隊の車列を狙ったIEDが爆発し、治安要員4名が殉職、2名が負傷した。
- 20日夜、KP州バンヌー郡ジャニケル地区でクワッドコプターから投下された爆発物が住宅に着弾し、女性2名を含む4名が負傷した。
- 21日、KP州モーマンド郡アンバー警察署管内のチャルグリ検問所がテロリスト達に狙撃され、警察官1名が殉職した。
- 21日、KP州カラク郡タクテナスラティTehsilファタ・シェリ地区で私立病院（テルハ財団）が身元不明の武装集団に襲撃され、職員1名が拉致されたほか、医療機器等が略奪された。
- 22日付のトルコ国営アナドル通信によれば、同国国家諜報庁（MIT）はアフ・パク国境で大規模作戦を実施し、IS-Kの幹部を務めるトルコ国籍のメフメト・ゴレン容疑者を拘束した。同人はアフガニスタン、パキスタン、トルコ及び欧州で民間人を標的とした自爆攻撃を計画する任務を負っていた。
- 22日、バロチスタン州チャガイ郡ノクンディTehsil及びタフタンTehsil付近の国境地帯で治安部隊は大規模なIBOを実施し、パキスタンに不法入国しようとした女性や子どもを含むアフガニスタン人179名を拘束した。
- 22日、KP州ラッキー・マルワット郡ビタニTehsilナリ・ワル地区で国営石油・ガス開発企業（OGDCL）の護衛部隊の1名が身元不明の武装集団に銃を突きつけられ拉致された。
- 23日、KP州カラク郡グルガリ警察署管内でパトロール中の警察車両が待ち伏せ攻撃を受け、警察官5名が殉職した。これを受け、CTDの特殊部隊を含む大規模な警察部隊が作戦を開始し、テロリスト8名を殺害した。
- 23日、KP州ドメルTehsil近郊でペシャワール電力供給会社（PESCO）の従

業員 3 名がアドミ橋付近の送電線で作業していた際に身元不明の武装集団から拉致されそうになり抵抗したところ発砲を受け、3 名は負傷した。

- 27日、KP州カイバル郡バラで警備車両が即席爆発装置（IED）の攻撃を受け、少なくとも8名の治安要員が負傷した。
- 27日、KP州南ワジリスタン郡グラーム・カーンで地雷が爆発し、家畜の放牧中の若者1名が重傷を負った。
- 27日夜、KP州ラッキー・マルワット郡アッバサ・カタック地区で平和委員会メンバーの自宅がテロリストからロケットランチャーによる攻撃を受け、同メンバーが負傷した。
- 28日、PICSSは2025年の国内の戦闘関連死者数の統計を発表した。同統計によると、2025年の戦闘関連死者数は前年の1,950名から73%増の3,387名に達し、武装勢力死者数2,115名と民間人死者数580名は2015年以来、治安要員死者数664名は2011年以来最多を記録した。
- 30日、KP州ラッキー・マルワット郡ワンダ・ジョギ地区で、通勤途中の警察官がオートバイに乗ったテロリストに銃撃され死亡した。
同日KP州タンク郡で、通勤途中の警察官がテロリストに誘拐され射殺された。